



Avid Pro Tools 12.8 で加速する Dolby Atmos 制作環境

by Masuko

2012年に登場したイマーシブオーディオの先駆けだった Dolby Atmos。当時センセーショナルだったサラウンドフォーマットは、その構造から特殊な作業環境や機材など…様々なハードルがあると思われてきました。実際に再生環境の構築はもちろんのこと、編集作業の複雑化やシステムの選定が特殊であったことにより、制作したくても環境整備が整わず断念する方々が多かった、というのが率直な感想です。また Atmos にチャレンジされた案件に携わった者としては、第三者からの目線でも高いハードルだな…と感じていました(苦笑)

しかし今は違いますよ！！ついにこの時がやってきたのです(笑)

Pro Tools 12.8 の登場によって、みなさまが普段ご利用されている Pro Tools と、Dolby 社から同時にリリースされた 2 つの Pro Tools 用 Atmos 制作 Suite の登場によって、超・ウルトラ・スーパー・ラクチン環境が作れるようになったのです。

今回は、超・ウルトラ・スーパー・身近な存在になった Dolby Atmos を簡単ご説明させていただきます。

■ Dolby Atmos Renderer ■

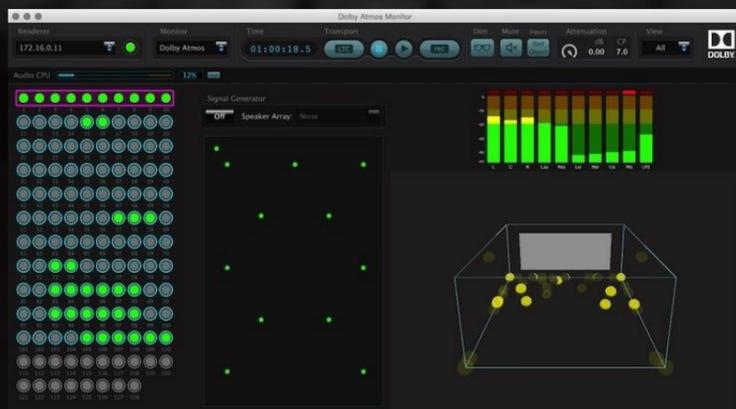


これが Atmos の心臓部となります。ソフトウェアベースで動作するこのツールは Pro Tools |HD 12.8 と同一 Mac 上にインストールし、Dolby Renderer Send/Return プラグインを使用して Pro Tools |HD と内部接続する形で使用します。Atmos ミックスを行っている間でも、Pro Tools からそのオーディオ及びメタデータを受信し、マルチチャンネル・スピーカー出力するのですが。。。なんとバイノーラル・ヘッドフォン出力も可能となり、コンパクトな環境であっても仮編集のような作業はおこなえてしまうのです。また部屋のシステムに合わせたスピーカーレイアウトを作ることになりますので、9.1.4ch や、天井を抜いた 9.1.0、5.1.2 など…スピーカーの数に制限があったとしても適切な音声配置をこの Renderer でリアルタイムに計算し出力することが可能となります。当たり前ですが…スピーカー配置をしていない場所からの音声出力はされません…。

■ Dolby Atmos Panner Plug-Ins for Pro Tools ■



Pro Tools の AAX フォーマットに対応した Dolby Atmos パンナー・プラグインです。このパンナーで 3D 空間内にオーディオ・オブジェクトを定位させ、そのメタデータ情報をジェネレートすることが可能です。補足ですがベッドチャンネルの定位は『Pro Tools 標準』のパンナーを利用することができますので、12.8 未満の Pro Tools とは格段に Atmos Mix が行えるようになったのです。またパンニング情報は Pro Tools で XYZ 情報となって Renderer と Pro Tools Soft 間での位置情報の互換もありますよ。オートメーション情報として残せるので、従来のサラウンドフォーマットの感覚で編集し、Atmos 最大の特徴である 118 オブジェクトのオートメーション情報も基本的に Pro Tools 内で編集ができるようになりました。



■ Dolby Atmos Monitor ■

Atmos に興味をもち、各所で開催されている Dolby 社のデモンストレーションに参加した方なら、誰もが一度は見ている画面が、この Atmos Monitor です。オブジェクトの移動を視覚化するツールとなり、実際に満足できるスピーカーレイアウトになっていない場合でも目で音の定位を確認することができます。また簡易的ではありますが、7.1.2ch のモニターコントローラーとしてもご利用することが可能です。3D 空間内で各オブジェクトが動き回るので、見ているだけでも楽しいツールです。

これら Dolby Atmos Production Suite は、Dolby Atmos の『ホームシアター』フォーマットの為のツールとなり、もう一つ上の規格である『シネマ』フォーマットには対応できません。もちろん互換性はあるのですが、シネマ環境の制作時には Dolby 社の設けたプログラムに対して適合した制作環境が必須となります。

このプログラムが存在するが為にホームシアター版の制作環境もハードルが高いと考えてしまっている方が多いのですが。。。実は Dolby 社としては、ホームシアター Atmos の制作に関しては限定的なプログラムはあるものの、基本スタンスとしてはハードルを設けていなかったのです。必ずしも 9.1.4ch のスピーカーレイアウトのあるスタジオ限定で制作してください！とは言っていなかったのです(苦笑)

なので、その気があれば『Pro Tools 12.8』と『Dolby Atmos Production Suite』のみで Atmos Home 対応のコンテンツ制作の入り口に立つことができます。という訳ですね。

スピーカーの設置も最初から 100% を望むパーフェクトな環境を構築しなくても、サイドスピーカーはスピーカースタンドで簡単に設置できますし、最も高いハードルと考えられている天井スピーカーも、高い位置まで上げられるスピーカースタンドを利用したり、既存のサラウンドシステムが、よくお見かけするサークル状のパイプで吊られているような環境であれば、そのサークルを利用したりパイプを追加したり…DIY 的なちょい足しで天井スピーカーの問題も、比較的解決できるのではないのでしょうか？ハードルが高いと勘違いしていたり、パーフェクトな環境がなければ Atmos コンテンツの制作ができない、結果的に経験できない。。。といった負の流れよりも、まずは手探りでも Atmos 制作への実験してみてください、イマーシブオーディオ制作に対応できるような経験をしてみませんか？

実際にこの半年くらいで Dolby Atmos に対応する仕事は急速に増えてきているそうです。今、ものすごい勢いで広がっているネット配信系コンテンツプロバイダ各社は、世界的な流れに乗って 4K 配信 = イマーシブオーディオがセットとなっているそうです。国内でも 3 社のメディアネット配信サービスを展開しているプロバイダが Atmos 対応のコンテンツ配信を開始しています。また海外ではクラブイベントホールにスピーカーアレイを作り、DJ パフォーマンスの延長で Atmos を利用したパフォーマンスが出てきています。

従来、映画のフォーマットと思われていた Atmos は、今や Dolby 社の中だけでも Dolby Vision や Dolby VR といった最先端コンテンツフォーマット全てに準拠し二次利用することが可能になってますし、イマーシブオーディオへの関心がとても高い今、Dolby Atmos への興味も高まっている今だからこそ、Pro Tools 12.8 で実験してみてくださいは如何でしょうか？

そして…なんとタックシステムは、この時代の波に乗って『Dolby Atmos Home Theater RMU』の国内販売を開始致します！

世界でも 7 社目の Dolby 社認定『Dolby Atmos Mastering Suite』ディーラーとして Atmos 環境構築のお手伝いをするようになりました。

■ Dolby Atmos Mastering Suite with HT-RMU/J ■



<2 つの Dolby Atmos Suite の違い>

	Cinema		Home	
	ミックス	マスタリング	ミックス	マスタリング
Dolby Atmos Production Suite	プリミックスのみ	不可	可能	不可
Dolby Atmos Mastering Suite	プリミックスのみ	不可	可能	可能*

Dolby Atmos Mastering Suite は、先にご案内した『Dolby Atmos Production Suite』3 シート分のライセンス、『Dolby Atmos Home Theater Renderer software for Windows』、『Dolby Atmos Conversion Tool』で構成されます。Atmos HT-Renderer Software は Dolby 社が推奨した DELL Workstation でのみ動作し、タックシステムでは、この PC に Renderer Software をインストール、MADI 入出力カードなど、全て調整済のターンキーとして即ご利用頂ける形でご提供を致します。HT-RMU では、コンシューマー向けホーム・シアター用マスター・ファイルである、Dolby Atmos master files (.atoms) が作成可能です。その名のとおり、製品としてのマスタリングを行えるユニットとなります。そして Atmos Conversion Tool は Mac OS でも Windows OS でも動作するコンバートソフトウェアとなり、.atoms、プリントマスター、BWA V を相互に変換、フレームレートの変換も行うことが可能となっております。

なお本製品をご利用するにあたり、1 つ重要なことがございます。コンテンツのマスターファイルを作るシステムである為、ちょい足し Atmos 作業環境ではなく、Dolby 社が推奨する 9.1.4 Atmos ニアフィールドモニターを備えた環境が必要となります。これらの環境を整えるご相談にもお答えできますが、選択肢として国内には、数は少ないものの推奨され HT-RMU が備わっているスタジオが複数ございます。最後に弊社でお手伝いをさせて頂きました『株式会社ポニーキャニオンエンタープライズ』様、『グロービジョン株式会社』様の 2 社を御紹介させていただきます。2 社共にスタジオレンタル業務をおこなっていますので、この機会にぜひご興味のある方はご活用してみてください。

■ 株式会社ポニーキャニオンエンタープライズ ピーズスタジオ A/R One ■



〒106-0041 東京都港区麻布台 2 丁目 3 番 5 号 ソアビル
最大 7.1.4ch DOLBY ATMOS HOME に対応したコントロールルーム
最大 25 名収容可能な収録ブースと撮影などにも活用出来るメイクルームを完備したラウンジスペース

スタジオ予約電話番号: 03-3585-8007

■ グロービジョン株式会社 九段スタジオ - 201 Dubbing Room ■



〒102-0073 東京都千代田区九段北 2 丁目 3 番 2 号
シネマスコop サイズで 149 インチまでの映像を投影でき、
Dolby Atmos Home までの音声を MIX ができる環境のスタジオ
Avid S6 24ch Console に Surround Panner を採用

スタジオ予約電話番号: 03-3359-7121